

## 箕輪町地域包括支援センター運営協議会 会議録

日時 令和8年3月16日 13時15分～14時30分

会場 箕輪町役場 進行 丸山江美

### ■出席者

(委員)東孝雄、有賀宏実、池田とも子、藤枝久美子、緑川潤也、浅沼秀夫、  
小林恭司、三浦浩平、林優、鮎澤ゆかり、水田道子 欠席:北野めぐみ(敬称略)  
(福祉課)土岐、丸山江美、兼子、有賀、丸山三奈美、清水

### 1 開会

### 2 福祉課あいさつ

地域包括支援センターは高齢者の総合相談・支援を担う機関であり、箕輪町では福祉課が兼務で運営していること、また地域包括ケアシステムは高齢者が住み慣れた地域で「普通の暮らし」を続けられるよう医療・介護・地域の支え合いにより生活を支える仕組みである旨の説明があった。

### 3 会長の互選

会長について立候補者がいなかったため、事務局より林優氏を推薦し承認された。

### 4 会長あいさつ

林会長より挨拶。委員の協力を得ながら会議を進めていきたい旨の発言があった。

### 5 協議事項

- (1)地域包括ケアの進捗と地域包括支援センター事業の取り組み
  - (2)令和8年度箕輪町地域包括支援センター運営方針
  - (3)町全体の課題についての意見交換
- 事務局より町の現状と課題について説明があった。

### ○町の現状と主な課題、取組の経過(資料:説明PPTによる)

85歳以上の高齢者が増加し、医療・介護ニーズが急増  
働く世代の減少 / サービス需要の増加 / 健康寿命延伸の重要性  
地域のつながりや互助の弱体化 / 免許返納後の生活課題  
長寿クラブの減少 / 常会加入率の低下

## 6 意見交換(発言要旨) (下線は福祉課による)

<p>○高齢者像の変化に、 地域包括ケアはどう対応するか</p> <p>&lt;変化&gt; ・ 独居または夫婦のみ世帯 ・ 75歳でも4人に1人は就労している ・ 興味関心が個別的 ・ 地域に住んでいるが、地域に紐づかない ・ 地域の団体や活動に負担感がある</p> <p>⇒ ・ お金を払えばサービスを受けられる環境は早晩なくなる ・ 特に免許返納後は、自助だけでは難しい面が出てくる</p> <p>①「減っていく地域との関わりの中で共助をどうするか」</p> <p>②「なるべく自力で暮らしていく期間を延ばすための、 介護予防をどうするか」</p> <p>15</p>	<p>「なるべく自力で暮らしていく期間を延ばすための、 介護予防の取り組みをどうするか」</p> <p>○フレイルの3観点を踏まえての・・・</p> <p>「社会参加」「口腔・栄養」「運動」</p> <p>➔「<b>高齢者の通いの場の今後</b>」を題材に、</p> <p>今日は皆さんとお話したいです</p> <p>16</p>
---	---

委員: デイサービスの利用者世代が変化し「行きたくない」という声も増えている。  
男性が参加しやすい活動や役割づくりが必要。町の通いの場の補助にお酒を伴う  
などの要件緩和があってもいい。 廃材を分解して鉄を販売し、収益で飲むなど事  
例もあり、役割のある活動が参加につながる可能性がある。

委員: 老々世帯や単身世帯が増え支援内容が増加している。ヘルパーの高齢化も  
あり、灯油運びやゴミ出しなど地域支援の必要性を感じる。生活介護支援サポーター  
の活用はできないのか。

委員: ケアマネジャーなど人材不足が課題。百歳体操など町内資源がよくわからないし、  
住民に十分知られていない。  
デイサービスに行きたがらない人もいる、そういう人が行ける場所があれば。

委員: 長岡では百歳体操が盛ん。25人参加している。85歳以上の一人暮らしが  
増加している。歩いて行ける身近な交流の場が必要。

委員: 町内にはふれあいサロンが41か所あるが、月1回ではフレイル予防として  
十分とは言えない可能性がある。  
北小河内のふれあいサロンはお酒が出るので男性が来る。  
こどもたちとのつながりが大事。 東小学校のコミュニティスクールの取り組みは頼  
まれて男性が来ている。通パトも外出の理由になる。

委員: 年齢や認知症の有無に関わらず、ごちゃまぜに集まれる場が必要。 どこか  
お宅をお借りして、自由参加、ボランティアも自由参加とか。会話の機会が生活の  
メリハリにつながるし、とにかく笑うことの効用は大きい。  
次の日程を確認して覚えるだけでも違う、個室にこもっているのが一番危ない。

縁側お茶会が、縁側がなくなって出来なくなってしまった。

委員：介護保険に至らない方の居場所づくりが必要。百歳体操が41か所もあるとは知らなかった、教えて欲しい。免許返納後の生活課題が多い。

委員：制度に該当しない人への支援が難しい。とにかく男性が出てこない。群れない。女性は大丈夫。ボランティア、シルバーの活動など、男性が自発的に参加できる場づくりが重要。男性がどこにいるか考えると、朝から図書館に1人である。そういう所に仕掛けてみてはどうか。

委員：下古田区には百歳体操、そば会、花桃の会などの通いの場があるが、デイサービスの違いは自発性。自分も介護に関わったが、本人が心地よい場所であったかどうか。

委員：社会が変化し、平均年齢は約83歳となり、数年先には組織維持が困難。活動ではなく「場」を中心に考える必要がある。出来る範囲で長続きするような。

みのわベースでパチンコなど、好きなことが出来る場があると面白いのでは。健康マージャンが週1回開催されていて、毎回4~5卓、人気がある。会員の家族を含めての楽しい取り組みをするなど、考えていきたい。足のない人をどうするか。子どもや通えなくなった高齢者を含めて集まりやすい工夫を考える必要がある。

### その他の意見交換

- ・中間教室のような、個室で、行くだけが目的の場所があると良いのではないか。
- ・地域内で「誰かが関わって」いけばよい。それで外へ出ていけばよい。
- ・天竜公園が歩きよく舗装が改装された。運動器具も設置するということで、町としてそういう方向で整備してくれれば、自然な健康づくりになる。
- ・町部へ出向く足がない。地元でやれることがあればよいが、小さい区では財政的な制約も。
- ・井戸端会議的なもの。歩いて行ける範囲にお茶のみの場があれば。

## 7 まとめ

会長より、地域で気軽に集まれる場づくりと、運営者の負担を軽減しながら誰でも参加しやすい仕組みづくりが重要とのまとめがあった。

福祉課より、いただいた意見を活かさせていただき、次回にご報告できるようにする。

## 8 閉会

